

学校支援地域本部事業実践現場訪問

人生の達人の話を聞く会 ～シルバー交流事業～ 富谷町立日吉台中学校

1 はじめに

富谷町では、「地域が元気になる！ 学校が元気になる！」のスローガンのもと公民館が地域の窓口となり、地域と学校をつなぐ取組を積極的に展開しています。これまでも地域と学校が一体となった取組は行われてきましたが、より確かな連携にするために、平成21年4月から「地域と学校をつなぐ取組」としてスタートしました。

具体的には、地域と学校との推進役として町内5つの公民館を学校支援地域本部として、各本部ごとにそれぞれのテーマを定め、学校と地域、公民館で子どもたちを育てる新たな体制を構築しました。地域コーディネーターを中心に教職員・公民館職員が連携し、地域とともに育つ学校を目指しています。学校には学校と地域の窓口となる生涯学習担当の教員も配置されました。

また、地域と学校の連携をさらに深めるため、学校の先生が講師となり、地域の方を受講生として楽しい「特別授業」を行う「とみやティーチャーズ・スクール」も実施されています。地域と学校がつながることで、子どもたちの豊かな学びが実現し、生きる力を育むとともに、地域住民が学校の教育活動に参加・支援することで、交流活動が活発になり、地域の絆が深まるといったメリットも生まれてきます。今回の日吉台中学校の取組はまさにそのような取組でした。

2 実施日 平成21年7月10日(金)

3 会場 富谷町立日吉台中学校

4 取組の概要

平成16年度から「学社融合事業」としてスタートした中学生と地域の交流事業を本年度から富ヶ丘・日吉台地区学校支援地域本部がコーディネートし、さらにグレードアップした形で1年生の「総合的な学習の時間」の一環として実施しました。支援本部の地域コーディネーター(富ヶ丘地区・日吉台地区)が老人会や学校との連絡・調整や授業に向けての事前準備などの企画・運営にあたりました。

当日は35名の高齢者の方が「人生の達人」として日吉台中学校を訪れました。参加された高齢者の方は、「中学生をよく理解してあげて、様々なことを伝えてあげたい。」「学校に来るのが楽しいし、自分のためにもなっている。」といった話をしてくれました。高齢者の皆さんは期待と不安をいだきながら、1年生の教室(3学級)に入りました。

それぞれの教室では、生徒が黒板に歓迎のことばを書いたり、ネームプレートを準備したりなど高齢者の皆さんを温かく迎えました。すぐに生徒ともうちとけ、4～5人グループに1人ないし2人の「人生の達人」を迎え楽しく交流しました。戦争の話や趣味の話、昔の食べ物の話、生まれ故郷の話など様々な話題に生徒たちも真剣に耳を傾けていました。高齢者の皆さんはいろいろな資料を準備したり、話したい内容などをレポートにまとめてくるなどきちんと準備をして参加されていました。

生徒の感想発表からは、「話してもらったことは、とてもためになった。」「教科書に載っていないたくさんのお話を勉強できた。」「戦争の話が心に残った。」「昔のお金を見れてよかった。」「地震の話がこわかった。」といった感想が聞かれました。授業終了後は、いっしょに給食を食べながら交流しました。

校長先生や学年の先生方からは、「せっかくの交流学習なので、今日の学習だけで終わらせるのはもったいない。」「事前の学習にもう少し時間をかけたかった。」「学校との連絡・調整をさらに密にすることで学習効果も一層高まるのでは。」といった話がありました。

5 日吉台中学校を訪問して

集まった高齢者の方々の「地域の子どもたちのためになれば」という姿勢には本当に感心しました。生徒たちも真剣なまなざしで高齢者の方の話に耳を傾けていました。まさに、「地域の教育力」のすばらしさを感じるとともに、「地域と学校をつなぐ取組」が着実に実現されていることを感じました。

【取組の様子】



地域の高齢者のみなさんにあいさつする日吉台中学校の相原校長。



地域の高齢者の方々が35人も集まってくれました。



教室に入り、生徒と顔合わせをしました。



生徒たちは高齢者の皆さんを温かい気持ちでお迎えました。



人生の達人は、生徒にいろいろな話をしてくれました。



人生の達人は、たくさんの資料を準備してくれました。



生徒からもいろいろな質問が出されました。



給食をいっしょに味わいながら、交流しました。